

つぶやき

このコーナーでは各県の相談に対するとりくみ等を紹介していきます。

子どものつぶやきに耳を傾けて 子ども情報研究センターとの連携の中で(大阪府教職員組合)

大阪府教職員組合では、「子どもの権利条約」の理念を教育の現場に生かしていくため、子ども情報研究センターと連携し、とりくみをすすめています。子ども情報研究センターでは、子ども・保護者・教職員等を対象にした「子ども家庭相談室」と、18歳までの子ども専用電話「チャイルドライン O S A K A」を開設し、子どもたちのつぶやきに耳を傾けて、「ことば」の奥にある「こころ」を受け止めています。
〈相談した子どもたちの声から〉

あたしはイジメの事と自殺の事の相談をしました。正直アドバイスしてくれるか心配だったし、不安でした。でも、ちゃんと話を聞いてくれたし不安も解いてくれました。まだ何回かかけると思いますが、ここなら安心して電話できるのですごくありがたいです。(14歳)

-2013 チャイルドライン年次報告書より-

大阪教組では、昨年度の「母と女性教職員の集い」で、チャイルドラインで相談活動されている方から、「子どもたちは話を聴いてもらうことで自分のもっている力に気づき、安心して次のステップへ踏み出すこ

とができる」というお話をうかがいました。今後も連携を深めていきたいと思います。

今年の大阪教組夏季セミナーでは、社会福祉協議会でC S W (コミュニティソーシャルワーカー)として地域で活動されている勝部麗子さんから、福祉と教育との連携の重要性について示唆いただきました。S S W (スクールソーシャルワーカー)の増員は、教職員組合としても府に増員を要求し、少しずつ実現を得てきました。生きにくさをもつ子どもたちや各家庭への支援を、S S W、C S W、学校がともに連携し、チームで対応しているケースも少しずつみられるようになっていきます。

私たちは、「学校」という枠の中だけではなく、広く地域の中で活動されている方々とつながり、子どもたち・保護者に寄り添って支援していくことが大切だと考えています。今後もネットワークを広げ、子どもたちの声にしっかりと耳を傾けて、一人ひとりが安心して地域・学校で過ごせる社会を創っていきたく思います。

〈社団法人子ども情報研究センター〉

ホームページ <http://www.kojoken.jp>

リバティおおさか (大阪人権博物館) へ ぜひ来てみませんか

リバティおおさか (大阪人権博物館) は、日本で唯一の人権をテーマにした博物館です。1985年の開館以来、国内外から145万人が利用しています。人権思想の普及を目的に被差別部落、しょうがい者、女性、在日外国人への差別問題などさまざまなテーマを企画、10月から12月にかけては「いじめと差別」の特別展とシンポジウム、記念講演を開催しています。現在、リバティおおさかでは、支援者による自主運営を行っており、サポーターを募集しています。

※お問い合わせは、リバティおおさか
または大阪府教職員組合まで



リバティおおさか 大阪人権博物館
〒556-0026 大阪市浪速区西3-6-36
TEL. 06-6561-5891(代)
H P <http://www.liberty.or.jp>